<table>
<tr><td>授業科目(ナンバリング)</td><td colspan="3">公衆栄養学Ⅰ　(IB270)</td><td>担当教員</td><td colspan="3">岡本美紀</td></tr>
<tr><td>展開方法</td><td>講義</td><td>単位数</td><td>2単位</td><td>開講年次・時期</td><td>2年・前期</td><td>必修・選択</td><td>必修</td></tr>
<tr><td colspan="7">授　業　の　ね　ら　い</td><td>アクティブ・ラーニングの類型</td></tr>
<tr><td colspan="7">地域の健康・栄養問題とそれを取り巻くさまざまな要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を修得することを目指す。また、地域の健康・栄養問題に対して、栄養関連サービスなどの取組みについて情報の分析を行い、適切なプログラム作成・実施・評価のマネジメントに必要な理論と方法の修得を目指す。</td><td>①④⑨⑪</td></tr>
<tr><td>ホスピタリティを構成する能力</td><td colspan="5">学　生　の　授　業　に　お　け　る　到　達　目　標</td><td>評価手段・方法</td><td>評価比率</td></tr>
<tr><td>専門力</td><td colspan="5">わが国の健康・栄養に関する法規について、目的や施行の意図について理解し、説明・活用できる。
公衆栄養活動を推進するための基準、指針やツール類を的確に使用することができる。</td><td>定期試験
小テスト</td><td>35%
15%</td></tr>
<tr><td>情報収集、分析力</td><td colspan="5">既存調査結果から健康状況･栄養摂取状況の把握のための資料の選択およびデータの読み取りができる。
集団に対する健康・栄養改善活動を行うために、健康・栄養に関する既存資料から現状の把握ができる。</td><td>定期試験
授業態度・授業への参加度</td><td>20%
10%</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション力</td><td colspan="5"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>協働・課題解決力</td><td colspan="5"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>多様性理解力</td><td colspan="5">集団を対象とした栄養学的な取組みの必要性を理解し、過去や現在に行われている公衆栄養活動について理解し、説明ができる。
公衆栄養活動について、どのような経緯から行われた取組であるか理解できる。</td><td>定期試験
小テスト</td><td>15%
5%</td></tr>
<tr><td colspan="6">出　　席</td><td colspan="2">受験要件</td></tr>
<tr><td colspan="6">合　　計</td><td colspan="2">100%</td></tr>
<tr><td colspan="8">評価基準及び評価手段・方法の補足説明</td></tr>
<tr><td colspan="8">定期試験として筆記試験（穴埋め式、筆記式の混合）を行う(70%)。単元が終わるごとにその内容に関する小テストを manaba やレスポンを用いて行い、概念や語句の理解についての設問の正答率を専門力及び多様性理解力を示すものとして評価する(20%)。授業態度･授業への参加度では､授業への取組状況を教員の主観的観点から評価する(10%)。
定期試験は、基本概念、関連法規および健康・栄養関連施策等の内容（目標値等も含む)、専門的用語・語句の理解に関して栄養士・管理栄養士の基本的知識となる事項を基に設問を行い、知識および技能の理解や修得状況について総合的評価を行う。
小テストのフィードバックは授業内にて解答とその解説をすることによって行う。授業への質問等については manaba にて受付け、manaba への記載事項の返答は、授業開始時に記載者を特定できないよう配慮して行う。</td></tr>
<tr><td colspan="8">授　業　の　概　要</td></tr>
<tr><td colspan="8">・講義形式で行い、必要に応じてレジュメや資料を配付する。
・健康・栄養に関する法規について説明し、規定内容について把握する。
・地域や職域の健康・栄養問題について、既存調査結果などの資料から現状を把握する。また、それらの問題の改善に向けた社会の取組み（ツール類も含む）について説明し、理解を促し、適切な活用ができるようにする。
・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180 分である。</td></tr>
<tr><td colspan="8">教　科　書　・　参　考　書</td></tr>
<tr><td colspan="8">教科書：Nブックス 六訂 公衆栄養学（建帛社)、管理栄養士・栄養士必携―データ・資料集―<2021 年度版>（第一出版）
参考書：栄養・健康データブック（同文書院）(健康･栄養問題や栄養政策に関する多種にわたるグラフ等がある）
指定図書：教科書と同じ</td></tr>
<tr><td colspan="8">授業外における学修及び学生に期待すること</td></tr>
<tr><td colspan="8">・食生活改善、栄養改善を目的とした社会的取組等が、身の回りでどのように行われているか知っておくこと。
・あらかじめ次回の授業内容について、テキスト等の該当ページを読んで置くこと。また、授業終了後には、授業内容について復習をして内容の理解を深めること。
・レスポン行うとき以外の携帯電話の無断使用および不必要な使用は厳禁である。
・授業中は、受講者としての常識的な態度で臨み、特別な事情を除き無許可での途中退室は認めない。</td></tr>
</table>

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	公衆栄養の概念　1	公衆栄養の概念	復習：公衆栄養の概念を理解し、公衆栄養の特性について考える。 予習：公衆栄養活動の歴史の該当頁を読み、身近な公衆栄養活動を考える。
2	公衆栄養の概念　2	公衆栄養活動の基本と展開過程	復習：公衆栄養活動について理解を深める。 予習：わが国の栄養政策の状況や栄養士法を調べる。
3	栄養政策　1	わが国の公衆栄養活動 公衆栄養関連法規①　栄養士法 管理栄養士・栄養士制度と職業倫理①	復習：栄養士法の規定事項の理解及び免許別の規定の違いを再確認する。 予習：健康増進法の専門用語の理解および、この法律に基づいた対策を知る。
4	栄養政策　2	管理栄養士・栄養士制度と職業倫理② 公衆栄養関連法規②　健康増進法	復習：法の内容や施策等の実施内容を再確認する。 予習：。地域保健法などの保健衛生関連法規の専門用語を理解する。
5	栄養政策　3	公衆栄養関連法規③　地域保健法等の 保健衛生関連法規	復習：健康増進法の内容の再確認および健康増進対策との関わりを理解する。 予習：健康･栄養状態の変化を調べる方法の概要およびその結果を調べる。
6	栄養政策　4 健康･栄養問題の 現状と課題　1	国民健康・栄養調査 食事の変化、食生活の変化	復習：　国民健康･栄養状態の理解および近年の調査結果が示す内容を理解する。 予習：　食環境を調べる調査方法およびそれらを示す調査結果を調べる。
7	健康･栄養問題の 現状と課題　2	食環境の変化	復習：食料需給表や食料自給率、近年の食環境の変化を理解する。 予習：健康づくりのための食生活指針の策定の背景等を理解する。
8	栄養政策　5	栄養政策の実施に関連する指針、ツール①	復習：指針等の内容理解をしておく。 予習：食事バランスガイド、指針等の該当頁を読み、専門用語の意味を理解する。
9	栄養政策　6	栄養政策の実施に関連する指針、ツール②	復習：食事バランスガイド、指針等の詳細を理解する。 予習：健康日本 21（第 2 次）を、テキストや厚生労働省のサイト等で確認しておく。
10	栄養政策　7	国の健康増進基本方針と地方計画 ～国の基本方針策定の目的・内容	復習：健康増進に対する対策の必要性や方針の理解を深める。 予習：国と地方の健康増進対策の関わりと地域特性を持った計画を考える。
11	栄養政策　8	国の健康増進計画と地方計画 ～基本方針の推進と地方健康増進計画	復習：地方計画の有用性について理解を深める。 予習：食育基本法を読み、専門用語等の意味を理解する。
12	栄養政策　9	公衆栄養関連法規　④食育基本法	復習：食育基本法の内容を理解する。 予習：第 3 次食育推進基本計画について、テキストやサイト等で内容を確認する。
13	栄養政策　１０	食育推進基本計画と地方計画	復習：食育の対策の有用性や対策の方法について理解する。 予習：諸外国の健康･栄養について記載しているWHO 等のレポートを読んでみる。
14	健康・栄養問題の 現状と課題　3	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題	復習：国別の状況の違いを確認し、栄養問題解消に向けた対策について考える。 予習：国際的な保健関連機関とその主業務を調べておく。
15	栄養政策　１１	諸外国の健康・栄養政策	復習：各国際的な保健関連機関の取組みについて理解する。
16	定期試験		